

# 白雲片片

## 第二十五回

### 僧侶の所持品と頭陀行

私たち僧侶は法衣や仏具を所持しておりますし、それとは別に寺院の所有物もあるわけですが、古来から僧侶は個人的にどのような物を所持しているべきとされたのかを調べてみました。まずは原始仏教の場合を挙げてみます。

#### ◎比丘六物（原始仏教）

- 一、僧伽梨衣（九条衣）  
そうぎやりえ
- 一、鬱多羅僧（七条衣）  
うったらそう
- 一、安陀衣（五条衣）  
あんだえ
- 一、漉水囊（水を濾す袋）  
ろくすいのう
- 一、応量器（托鉢や食事に使用する器）  
おうりようき
- 一、尼師壇（坐具・敷物）  
にしだん

「漉水囊」は水中にいる虫を飲んで殺してしまわないよう、水を濾すための袋だそうです。

そして後の大乘仏教では所持すべきとされた物が増えています。

#### ◎十八種物（大乘仏教）

- 一、楊枝（齒磨き用具）  
ようじ
- 一、澡豆（豆で作った粉洗剤）  
そうず
- 一、三衣（九条衣・七条衣・五条衣）  
さんえ
- 一、瓶（飲み水などを入れる容器）  
びょう
- 一、鉢（応量器）  
はつ
- 一、坐具（敷物）  
ざぐ
- 一、錫杖（獣や毒蛇を遠ざけるための金属が鳴る杖）  
しゃくじょう
- 一、香炉（香を焚くための炉）  
こうろ
- 一、漉水囊（水を濾す袋）  
ろくすいのう
- 一、手巾（手ぬぐい・タオル）  
しゆきん
- 一、刀子（剃刀やナイフなどの刃物）  
とうす
- 一、火燧（火打ち石）  
かすい
- 一、鑷子（ピンセット・毛抜き）  
せつす
- 一、繩床（縄で作った簡易な寝具・ハンモック・簡易な椅子）  
じょうしょう

一、きょう經 (經本)

一、りつ律 (戒律の本)

一、ぶつぞう仏像 (如来像)

一、ぼさつぞう菩薩像 (菩薩像)

いろいろとございますが、わずかな日用品と衣服・仏具のよう

です。現代では仏像を持ち歩くという習慣が全くございませんが、

定住することのない昔の僧侶にとっては当然のことだったのかも

しれません。また、三衣は一つにまとめてあるのに仏像と菩薩像

は分けてあります。仏(如来)と菩薩は別であるという教義上の

理由から一緒にするわけにはいかなかったのかもしれない。

この中で私が一番疑問に思ったのがせつす鑷子です。ピンセットや毛

抜きのように小さな物をつまむ道具だと思えますが、この厳選さ

れた所持品に採用する理由は何だったのでしょうか。頭髮や髭は

かみそり剃刀(刀子)で剃るはずですから抜くことにはないと思えます。眉

毛を抜いて整えるわけでもないでしょうし、その他の毛を抜くこ

ともちよつと考えられません。何かトゲのような物が刺さった時、

抜くのに使ったのでしょうか。裸足の時代もあったでしょうから、

足の裏に何か刺さった時のためかもしれません。もしかすると素

手で触りたくない物や、何らかの理由で触るべきではない物をつまむのに使ったのかもしれない。

これら僧侶個人の所持品については日本に伝わる以前に定められていたわけですが、道元禪師は十八種物について正法眼蔵の中で以下のように説かれています。

**正法眼蔵「洗面」**

『中略』ぼんもう梵網菩薩戒經に云く、若なんじぶつし仏子、常につね忘に二時にずだ頭陀し、

とうげ冬夏に坐ざぜん禅し、けちげあんご結夏安居すべし。常につね楊枝・そうず澡豆・さんえ三衣・びやう瓶・はつ鉢・

ざぐ坐具・しゃくじやう錫杖・こうろ香炉・ろくすいのう漉水囊・しゆきん手巾・とうす刀子・かすい火燧・せつす鑷子・じやうしやう繩牀・

きやう經・りつ律・ぶつぞう仏像・ぼさつ菩薩の形像を用うべし。而してしこう菩薩頭陀を行ぎやうず

る時、及びおよ遊方ゆほうの時、ひやくりせんり百里千里を行ぎやうらい来せんに、此この十八種じゅうはつしゆの物

は、常に其つねの身みに随したがうべし。頭陀ずだは正月十五日しょうがつじゅうごにちよ従り三月十五日さんがつじゅうごにち

に至り、八月十五日はちがつじゅうごにちよ従り十月十五日じゅうがつじゅうごにちに至る。是この二時にじの中、此こ

の十八種じゅうはつしゆの物は、常に其つねの身みに随したがえて鳥とりの二翼にやくの如ごとくすべし。

この十八種物じゅうはつしゆもつ、ひとつもきけつ虧闕きけつすべからず。もしきけつ虧闕きけつすれば、鳥とり

の一翼いちやくおちたらんがごとし。一翼いちやくのこれりとも、飛行ひこうすることあ

たわじ。鳥道ちやうどうの機縁きえんにあらざらん。菩薩ぼさつもまたかくのごとし。こ

の十八種の羽翼うよくそなわらざれば、行菩薩道ぎやうぼさつどうあたわず。十八種のうち、楊枝ようじすでに第一だいいちに居こせり。最初さいしょに具足ぐそくすべきなり。この楊枝ようじの用ようぶ不ふをあきらめんともがら、すなはち仏法ぶつぽうをあきらむる菩提薩埵ぼだいさつたなるべし。いまだかつてあきらめざらんは、仏法（仏法未だ夢にも見ざる在るなり）也未夢見えいむつみ在ざいならん。

しかあればすなわち、見楊枝けんようじは見仏祖けんぶつそなり。或もし人ひと有りあ意旨いし如何いかんと問とわば、幸さいわいに永平老漢えいへいろうかんの嚮楊枝しやくようじに値あうと。この梵網菩薩戒ぼんもうぼさつかいは、過去現在未來かこげんさいみらいの諸仏菩薩しよぶつぼさつ、かならず過現当かげんとうに受持じゆじしたれり。しかあれば、楊枝ようじまた過現当かげんとうに受持じゆじしたれり。〔以下略〕

禅学大辞典によれば、十八種物は「頭陀十八物」ともいい、こちらでは經と律をまとめて「經律」とし、その代わりに「香匣かうがい（香合）」が加えられています。右に挙げた「洗面」の巻の中にも「頭陀」という言葉が何度か出てきましたので調べてみました。

### ◎頭陀 dhūta

【身心を修治し、貪欲などの煩惱を棄捨・除遣・催破すること、主に、比丘が衣食住などについて、厳格で簡素な生活を送ること。】  
先に挙げた洗面の巻の一行目に「二時に頭陀し・・・」とあります。こちらの意味は「托鉢をすること」のようです。ここで

托鉢の意味を確認してみます。

### ◎托鉢 pindapata

【出家者が鉢を携えて、城市・村落に食を乞うこと。托鉢の風習はインドでは古く佛教以前から婆羅門教やその他の教団でも行われており、佛教でも当時の風習に従って比丘達が食物を得るには、原則的には托鉢によるとされた。中国や日本では多く禅宗に伝えられたが、他の宗派でもこれを行うことがある。また托鉢は鉢を手てにささげもち（托）、民間に行いって戸こごとに（軒鉢）、もしくは道を歩くのみで行乞するもの（連鉢）であるが、その時錫杖または鈴をもって告知し、または誦經する。〔以下略〕】

また、「洗面」の巻に「菩薩頭陀を行ずる時」とありますが、こちらの頭陀の意味は托鉢ではなく「厳格で質素な生活を送ること」のようです。摩訶迦葉尊者が実践されたとされる十二頭陀行というものがございしますので挙げてみます。

### ◎十二頭陀行 dvadasa-dhūta

- 一、在阿蘭若處ざいあらんにやしよ（戶外の寂靜の地に在あって住す）
- 二、常行乞食じょうぎぎきじき（常に自ら食を乞い、他の接待・僧中の食を受けない）
- 三、次第乞食しだいぎきじき（貧富の差なく食を乞う）

- 四、じゆいちじきほう受一食法（午前中一回の正食の外は食べない）
- 五、せつりようじき いったん節量食（一揣の食を得て多くを受けない）※一揣は鉢一杯分か
- 六、ちゆうご ふどくおんしょう中後不得飲漿（午前中一食の外はそれ以後は飲食をとらない）
- 七、ちやくふんぞうえ著糞掃衣（人の捨棄せる汚衣を縫納し着用する）
- 八、たんきんえ そうぎやり うったら あんだえ但三衣（僧伽梨、鬱多羅、安陀衣の三衣の外は着用しない）
- 九、ちよかんじゆう塚間住（墳墓にあつて住す）
- 十、じゆげじゆう樹下住（樹下にあつて住す）
- 十一、ろじぎ露地坐（屋外草地樹下にあつて坐禅する）
- 十二、たんざふが但坐不臥（常時坐禅して横臥しない）
- 十二のうち五つが食事、三つが住む場所、二つが衣服、残り二つが坐禅や姿勢に関することでした。大まかにまとめると、人があまり近寄らないような屋外の場所に住み、他人が不要になつた布で衣服を作つてまとい、托鉢でわずかな食事を頂戴し、それも午前中以外は食せず、他の時間は寝る時も含めて専ら坐禅をして過ごす、ということになるかと思ひます。

釈尊から唯一嗣法を許された摩訶迦葉尊者は、釈尊十大弟子のうち頭陀第一と尊敬されていますが、その伝記によると常に弊衣

をまとい、人里離れた山間に住み、釈尊の教えを信奉して頭陀行に励んだとされています。そしてその様子を見た釈尊は摩訶迦葉尊者が非常に優れていることを認め、ある時、自らの座を半分譲つて摩訶迦葉尊者が偉大なことを大衆に示したといわれています。

**正法眼蔵「行持」上卷**

『〈中略〉あるいは迦葉、頭陀行持のゆえに、形体憔悴せり。衆みて軽忽するがごとし。ときに如来、ねんごろに迦葉をめして、半座をゆずりまします。迦葉尊者、如来の座に坐す。しるべし、摩訶迦葉は仏会の上座なり。生前の行持、ことごとくあぐべからず。〈以下略〉』

現代の我々の環境では所持品の制限も頭陀行も、以上に挙げたようなことはなかなかできそうにございませぬが、「できる限り不要な物は所持しないようにして、可能な限り質素に努める」という仏祖の教えの方向性を常に念頭に置き、これから年末年始に向けて身の回りの整理整頓に努めたいと思ひます。

参考文献／駒澤大学編「禅学大辞典」、水野弥穂子校注「正法眼蔵」一・三卷、西嶋和夫著「現代語訳正法眼蔵」第八卷